

第67回「くじゅう山開き」 “久住山(1,787m)で山頂祭開催”

～ 恵の雨が降る中 一歩一歩山頂を目指し 今シーズンの安全祈願 ～

6月2日、くじゅう観光連盟主催(会長:日野 九重町長)により、第67回「くじゅう山開き」山頂祭が、久住山(1,787m)山頂で開催され、九重町、竹田市、竹田警察署、玖珠警察署、大分県、環境省など関係機関・団体の代表者が出席して山頂祭が行われ本格的な登山シーズンがスタートしました。大分森林管理署から坂本署長、永田次長の2名、大分西部森林管理署から益田署長をはじめ8名、両森林管理署から10名の職員が出席しました。

前夜祭の1日は、遭難者追悼慰霊祭及び前夜祭イベントが長者原で執り行われ、追悼慰霊祭では、益田大分西部森林管理署長が「遭難者に思いをいたし登山者に安全にくじゅう連山を楽しんでもらえるようにそれぞれの立場で取り組んでいきたい」と挨拶を述べました。

山頂祭の2日は、今シーズンの安全祈願が執り行われ後、主催者から、「雨天にもかかわらず参加した方々への御礼と安全な登山のお願いとともに来年の山の日の全国大会が「くじゅう」で開かれることのPR」がありました。

つづいて、坂本大分森林管理署長から「くじゅう連山の多くは国有林で、国民の財産、地域の財産です。本日は、雨模様ですがこれも陽の光や星空と同様に天の恵み、また、ミヤマキリシマはじめ貴重な生態系を育む森と大地にあふれる「くじゅう」を健康と安全に気を付けて愛しんで楽しんでいただき、九重町、竹田市はじめ地域の発展に繋がることを祈念します」と祝辞を述べました。その後、竹田警察署長を筆頭に最年長者などの掛け声で万歳三唱で式典を盛り上げました。

式典終了後、事務局で準備した記念品(ペナント)の配布があり、ペナントには「令和元年」とプリントされており、受け取った登山者は新しい時代の記念になりますと大喜びでした。

これから本格的な夏山のシーズンとなり、そして、季節の移り変わるくじゅう連山の自然を楽しむことができます。



坂本 大分森林管理署長(左) 挨拶



今シーズンの安全祈願



登山道周辺のパトロール



ピンク色に染めるミヤマキリシマ (6月2日撮影)

【 山岳遭難防止の呼びかけ 】

- スマートフォン(GPS付き)等の通信機器を携帯しよう
- 経験、体力に応じた無理のない登山をしよう
- 登山届(計画書)を必ず携行しましょう
- 照明具、非常食、雨具は必ず携行しよう
- 天候不良時は勇気をもって登山を中止しよう
- 単独登山はやめて、仲間と登ろう

【山開きから3日目の6月5日 久住山に咲く ミヤマキリシマの状況】

～ くじゅう地域の国有林では4月17日から7月末まで(本年度前期) 森林保護員による保全活動も実施中 ～



歩道の点検



ミヤマキリシマ (避難小屋付近で6月5日撮影)



ミヤマキリシマ (沓掛山～扇ヶ鼻分岐で6月5日撮影)



ミヤマキリシマ (沓掛山～扇ヶ鼻分岐で6月5日撮影)